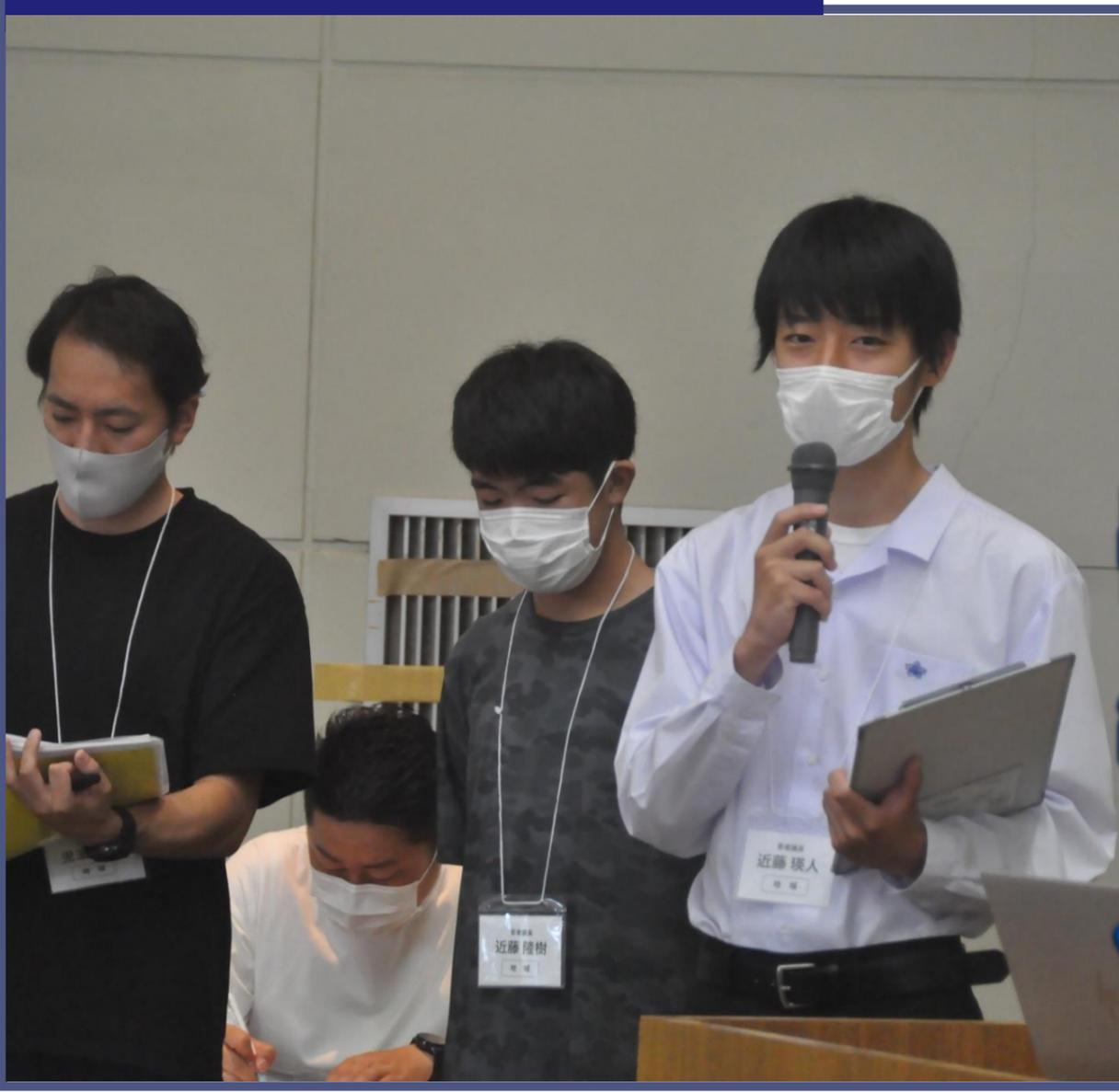


作:鈴木崇之
現場風景



5委員会が政策を発表！！



第九回全体会議 中間報告会

総勢八十名以上が集う
中間報告会

政策発表会 真剣に政策を語る

若者の目線で理想のまちを考える「蒲郡若者議会」の中間報告会が一日、勤労福祉会館で行われた。

観光委員会は「地元食材を使ったグルメグランプリの開催」特にマイクロマトを新たな特産品として認識してもらおうと発表。▽子供供のび遊べる街にしたいと、蒲郡の知られていない遊び場を知ってもらうため、既存アプリである「うーみんナビ」を広めたいと発表。▽福祉委員会は若者と高齢者のコミュニケーションの場が不足していることに着目し、若者と高齢者の架け橋となるイベントを開催予定。今後、どのようなイベントに需要があるのかを調査していくと発表。▽地域委員会は若者が魅力と考えるアートと若者とは縁遠い蒲郡の魅力の一つである温泉をマッチングし、新たな魅力を創成させると発表。▽娯楽委員会は令和時代の娯楽観光業は情報発信とSNSの有効活用が重要であると、デジタル看板の設置について発表した。各委員会で小委員会を何度も開催し、発表資料や準備を若者議員だけで行った。主体的に動く蒲郡若者議会には期待しかない。

熱い意見交流会

中間報告会後半の部では、市長や市役所関係者、市民団体等、総勢八十名を超える方々との意見交流会が行われた。

若者議員は個人個人で政策の改善や向上のため、積極的に会場参加者に意見を頂いていた。各委員会の政策に関連している方々からのアドバイスはもちろんのこと、担当部署以外の方々からの多角的な意見が参考になったようだ。今後は、中間報告会で出会った方々への改めての訪問や、現地取材を行うことで、各委員会の掲げる「理想の未来像」実現のための政策を再検討していく予定である。また、この日は今後の日程についても発表された。九月二十六日に蒲郡中央通りで行われる福寿稲荷ごりやく市にて事業実施、十一月二十日には最終報告会を行う。中間報告会で気づいた点を若者議会全体で共有し、今後も意欲的に動いていく。



蒲若春秋



八月に入り、中間報告会会場である勤労福祉会館は空気が肌まじわりつくような暑さ。クーラー、そして扇風機は四個を要した。しかしながら、この暑さを吹き飛ばす熱気を若者議員は持っている。政策発表では、各委員会が伝え方を工夫し、市役所幹部からの質問には今後の動きを考慮に入れた受け答えが出来ている。意見交流会では具体的な質問を求めている光景を見ることが出来た。中間報告会に至るまでの道のりに対して、熱意を維持する事は非常に難しかったはずである。顔合わせ会の後すぐに全体会議の中止、その後二か月も対面開催からオンライン開催への変更が続いた。そのような状況でも、若者議員は、オンライン懇親会などを企画し、一步一步絆を深めてくれた。今後も新型コロナウイルスの感染拡大状況にもよるが、若者議員と顔を合わせ、主体性を尊重しながら、全力でサポートしていきたい。また、これからはまちへのPRを重視していきたいと思う。

